

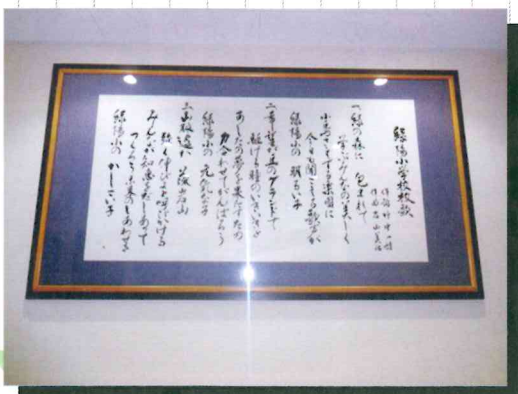
おん



えん



NEWS



旧 緑陽小学校校歌

- 発行者 北広島リハビリセンター 特養部四恩園
- 住 所 〒061 - 1153 北広島市富ヶ岡509 - 31
- T E L (011)373-6655
- F A X (011)373-6611
- ホームページ <http://www.shionen.or.jp>
- E-mail tokuyo@shionen.or.jp
- 編集発行 広報委員会
- 編集発行責任者 三瓶 徹

ふれて・ともにを

「共助」の場！

総合施設長 三瓶 徹

目覚めて外を見ると銀世界である。それでも今日は施設まで歩くと決めていた。徒歩は、車での通勤と違い季節を感じながらいろいろなことを考えることができるので好きだ。スノトしがすっぽり埋まるくらい降った新雪をラッセルしながら竹山の坂を歩くのは、今年介護保険の第一号被保険者になる身としてはしんどい。「自助」という自分の健康のためと言いつつ聞かせ、汗だくになり施設にたどり着いた時の爽快感は何とも言えない。

人が生きていくのに「自助」「共助」「公助」という助けが必要です。「自助」は自分の健康は自分で守る、自らの安全は自ら守るなど自分にしかできないことは自分で行うということです。「共助」はお互いが協力し合ってお互いを守るなど見守りや災害時における助け合いがそれです。地域のお祭りなど交流イベントの開催も「共助」といえます。「公助」は私たちではできない領域を公が担う、役所、消防、警察、保健所、医療、福祉サービスなどがあります。二〇二三年に厚労省が発表したもので驚くべき認知症発症の推計が発表されました。それは六十五歳以上の二五%が認知症、

二二%が軽度認知症で合わせると四人に一人がその対象となるというものです。国民病と言われるゆえんです。認知症が病気であり、自分ひとりですべてにかかえるものではありません。「自助」の努力だけでは如何ともしがたいものがあります。全ての軽度を含む認知症の人たちを介護保険サービス等の「公助」だけで支えることも難しいものです。

二〇二五年にはすべての団塊の世代が七十五歳以上となります。年齢が高くなるほど認知症の有病率は高くなり対象者はさらに増えます。認知症の病気を理解し、地域で認知症の人たちを互いに支えあう「共助」は欠くことができないものです。地域の人のつながりや認知症の人の病気を理解する情報発信などの「共助」の場として「地域交流ホームふれて」や「サポートセンターともに」が活かされ地域の価値ある資源になれば幸いです。

降り積もる新雪に、一歩踏み出しラッセルしながら歩くつらさは「自助」のためですが、その一歩の踏み出しが道をつくると思えば「共助」につながるのではと案じつつ。

基本理念

1.「お客様に喜んでもらえるように」

私たちは、お客様本位のサービス提供を実践し「かかりつけ施設」としての信頼を高め、お客様に喜んでもらえるよう誠心誠意努めます。

1.「お客様の役に立てるように」

私たちは、福祉倫理・知識・技術の修得を怠ること無く、自己啓発に励み、お客様の役に立てるようその向上に努めます。

1.「地域に求められる資源として」

私たちは、サービスが地域の方々の生活を支え、無くてはならない資源として求められるサービスを提供できるようにその実践に努めます。

1.「力が出る「ほうれんそう」」

私たちは、お客様の役に立つために、一人一人の力を全体の力とするため報告・連絡・相談を徹底しチームワークの結束に努めます。

1.「地域の資源の活用とつながり」

私たちは、お客様のニーズ充足のために関係機関・職種との連携に努め、地域の資源を活用し必要なサービスの提供に努めます。

1.「信頼は接し方から」

私たちは、「同じ目線の高さ」「さわやかなあいさつと笑み」「声がけ」「聞き手に回る」お客様との日々の接し方が信頼を生むことを知り、その実践に努めます。



デイホームさとみ



地域交流ホームふれて・かたる



地域サポートセンターともに



四恩園

地域とともに

北広島団地地域サポートセンターとともに 施設長 中川 浩一

少子高齢化は、北広島市に於いても例外ではなく、北広島市全体の高齢化率は二六％に達し、当法人がある北広島団地地区の高齢化率は二八％と高く、今後更なる上昇が予想されています。少子高齢化に伴うつながりの希薄化、一人暮らし高齢者の増加、要介護高齢者の増加など、地域が抱える生活課題の解決に向けた取り組みは、そこに暮らす住民はもとより社会福祉法人としても緊切な課題となっています。

そんな中、当法人は、かつては地域の財産でありシンボルであった小学校跡施設をサービス付き高齢者住宅やグループホームなどが入った福祉施設として再生できないかとの検討を進めてきました。

従来小学校は、「人格形成の学びの場」として機能してきましたが、これからは、「人が生きるといふことの学び舎」、「人と人の「つながり」を大切に作る空間」として、誰もが生き生きと自分らしく、住み慣れたまちで暮らしていくために多世代が活用できる地域の拠点となることを目指します。

北広島団地地域サポートセンターには、地域交流、地域防災、生活課題への相談や、地域包括ケア等の機能を持たせました。平成二十六年四月、当法人の本来の事業である複合型サービス事業、訪問看護事業、サービス付き高齢者向け住宅、

認知症対応型共同生活介護、居宅介護支援事業、訪問介護事業をスタートさせました。二カ月後に従来小学校が有していた体育館、グラウンドの機能に加え、地域交流スペースとしてのキッズコーナーやサークル活動に使える活動室を開放し、地域住民、子供たち、施設利用者がその場集い、多世代が交流できるようにしました。グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅の入居率は既に二〇〇％に達しており、待機者が発生しています。また、地域交流スペースの開設後五カ月間の延べ利用者数は約四千人に及び地域サークルの活動拠点になっています。

北広島団地地域サポートセンターとは、かつては地域のシンボルであった学校が、高齢者から子どもまで多くの人が集い活用できる施設として生まれ変わった、時代のニーズと合致した有効的な学校跡施設活用事業です。また、地域外の方がこの施設を訪れることによって、北広島団地地区が本来持つ抜群の住環境の良さといった魅力に触れる機会となり、「住みよいまち北広島」の更なるPRもしていきたいと思えます。

これからも地域住民、自治体、法人が三位一体となって知恵を出し合って、この地域が益々元気になるように取り組んでいきたいと思えます。

活動室・体育館・グラウンド貸出 行っています！

活動室は、サークル活動や各種会議などに利用できます。
開館日 月～金・日曜
*土曜、祝日、お盆期間、年末年始は休館です。

利用時間
●活動室・体育館・グラウンド＝午前10時～午後8時30分
●宿泊＝チェックイン午後3時／チェックアウト翌日午前10時

利用料金
●活動室＝1時間200円～500円
●体育館＝団体は1時間700円、個人は1時間60円

●**宿泊**＝1人1泊1,000円
*グラウンドは無料です。
*利用料の減額・免除もあります。詳しくはお問い合わせください

申込日時
5月12日からの月～金曜 午前10時～午後5時30分(祝日を除く)
*利用を希望する日の2カ月前から受け付けます。

申込み
利用申込書に記入し、利用料を添えて直接、地域サポートセンターとみにへ(☎373-7007)



北広島団地地域サポートセンターとみに

気軽に喫茶コーナーを手伝ってみませんか？

喫茶コーナーお手伝い急募!

ともに語りともに楽しむ
ともに生きるぬくもりを学びましょう！

あなたの経験、知識、特技を生かしませんか？

喫茶コーナー手伝い
ガーデニング
子育て支援
市民講座の講師
地域の課題解決
イベント企画
などなど

わたしはこんなことがしたい!

そのほかにも、あなたの経験、知識、特技を生かせる場です。どんなことでもご相談をお待ちしております。

ともに市民スタッフの会
(北広島団地地域サポートセンターとみに)
〒061-1137 北広島市緑町1丁目2番地
TEL 011-373-7007 担当：中川、向山

センターとともに



ばあちゃんとおこにおいで～



わたあめはやっぱり甘いな



子供は無条件でめんこい!



四恩園の歴史ある桜を見物に

認知症のある方、日常的に看護師さんの対応が必要な方たちが、安心して自宅での生活を続けるためにどんなサービスがあればいいのだろうか。通って泊まれるなじみの場所があって、なじみの人間関係の中、その人に合った介護や看護サービスが受けられる。ご自宅に訪問するのも、その人のことを良くわかっているなじみの介護・看護職員。そんなサービスがあればお客様も介護するご家族も、安心なのではないか。もっとお客様に喜んでもらえるように、役に立てるようにそんな新しいサービスを創りたいという四恩園の熱い想いがこもっているのが、この複合型サービスです。四月にスタートしお客様やご家族に喜んで頂いています。が、これからももっともっと良いサービスにしていきたいと考えています。

(複合型サービス 平野)

複合

北広島複合型サービス 四恩園に思いを寄せて

平成二十六年四月開設、北広島グループホーム四恩園がめざすものは、地域で暮らし続けることを大切にしていきたいと考えています。開設前、お客様ひとり一人にお会いし、在宅での生活の様子を伺いました。できるだけ環境の変化に対応できるようにご本人の「あたりまえの暮らし」が具現化できるように総合的な生活支援を実現していきたいとの思いで日々東町、西町の職員と取り組んでいる状況です。そんな中、お客様のご家族より「四恩園だから安心だ。四恩園だから申し込んだ。」との声を伺い、今まで積み上げてきた「チーム四恩園」の信頼を今後も引き継いでいく事の責任と重要性、またやりがいと職員と一緒に実感しています。お客様も入居当初は、混乱、幻覚、妄想等さまざまな行動症状や体調変化がみられていましたが、ご家族や地域の方々、他部署からの協力での生活が有ると感謝しています。これからもより個別性を大切にその人らしい生活を支援していきます。

GH

安心してもらえる グループホームを目指して

「サービス付き高齢者向け住宅しおん」全三十一室は平成二十六年四月にオープンしました。住み慣れた我が家を離れたお客様が、安心して生活が送れるようにお手伝いしています。現在「しおん」では、お客様の健康維持、介護予防のために週二回の健康体操の実施や管理栄養士によるバランスのとれたおいしい食事を提供しています。近くのスーパーへ買い物送迎を月二回、カラオケや麻雀なども時々楽しんでいきます。体操やカラオケは、同じ建物「ともに」で生活されているグループホームや複合のお客様も一緒に参加することもありますし、夏まつりやご家族も参加されたもちつきも合同で企画し楽しみました。

サ高住

地域とともに！ しおんの繋がりが

「サービス付き高齢者向け住宅しおん」全三十一室は平成二十六年四月にオープンしました。住み慣れた我が家を離れたお客様が、安心して生活が送れるようにお手伝いしています。現在「しおん」では、お客様の健康維持、介護予防のために週二回の健康体操の実施や管理栄養士によるバランスのとれたおいしい食事を提供しています。近くのスーパーへ買い物送迎を月二回、カラオケや麻雀なども時々楽しんでいきます。体操やカラオケは、同じ建物「ともに」で生活されているグループホームや複合のお客様も一緒に参加することもありますし、夏まつりやご家族も参加されたもちつきも合同で企画し楽しみました。

地域の方々とお話しする機会も多くなりました。移動販売は地域の方も利用していますし、毎週月曜日「ともに市民スタッフ」が開いている喫茶では、おいしいコーヒーを飲みながら談笑しています。人と人のつながりを大切に、楽しく、安心して生活が送れるように、そして「しおん」が新しい我が家となるように、力になればと思っています。



ともに周辺 ぶらり紅葉散策♡



できたお菓子はうまいぞ～



敬老会だよ全員集合～!!!!

（グループホーム 皆木）



(サービス付き高齢者 住宅 菊地)



地域サポート

訪看 たくさんの笑顔 のために

訪問看護四恩園は現在看護師三名体制です。健康面全般・薬の管理やリハビリ、入浴や排泄介助、さらにはご自宅での看取りなども支援しています。ともにに移動し同施設にあるグループホーム入居者の健康管理も担っているところです。昨年までは恒例の外出行事を実施していましたが、今年はヘルパーと合同で、「作品展」を実施、利用者も見学がてらともにいらしていただきました。

三名とも外勤しており、ほとんどともににいませんが、是非遊びにいらしてくださいね。二月にはプロカメラマンによる、「笑顔の撮影会」も企画しています。沢山の笑顔をこれからも応援していきます!!

(訪問看護 町田)



ヘルパー 基本理念の唱和から 始まる朝

ヘルパーステーションはパートヘルパーが多い職場です。全員が顔を合わせる月一回の会議は、基本理念の唱和から始まります。「お客様に喜んでもらえるように」「お客様の役に立てるように」を常に意識して訪問しています。制度改正の度、訪問できる時間がどんどん短くなっていますが、ヘルパーはお客様ひとり一人の生き方、大切にしてきた生活のこだわりを尊重して援助させてもらっています。

(ヘルパーステーション 菊地)



居宅 お客様の声から 地域を支えるために

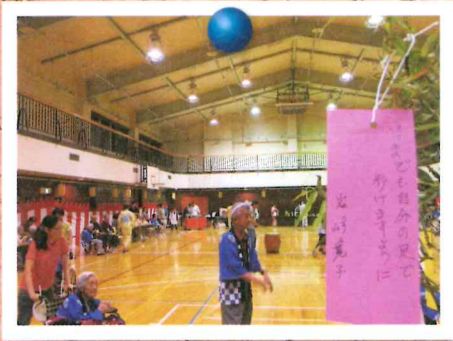
ケアマネジャーは、お客様が病気や障がいをもったとしても、住み慣れた地域で暮らすことができるよう、ご相談に乗らせていただいています。

私どもの事業所も、ともに内へ移転いたしました。ともにが、地域住民の皆様とともに北広島団地の今後を考える拠点となるよう、ケアマネジャーが見ている地域の現状や福祉の情報を地域の皆様へ発信し、地域の生活課題や望ましい姿について、地域の皆様とともに考えていきたいと思っています。

(居宅介護支援事業所 新沼)



の笑顔



お客様



新たな住みか

～ともに生きる夫婦・家族の絆～

昨年4月、ともりがオープンとなり、実際にサービス付き高齢者住宅に引っ越され生活して頂いているお客様にインタビューさせて頂きました。入居を決めたきっかけや家族への想いなど多くのお話を聞かせて頂きましたので紹介いたします。



中島八重子様・二三一様
ご夫婦

穏やかでとても優しい雰囲気をおもちの二三一様と、とても明るく温かく包んで下さる八重子様。今回は主に奥様にお話しを聞かせて頂きました。

『ともに』での生活を決めたいきっかけや理由について

元々は札幌にお住まいだったお二人ですが、ご主人様の定年を機に北広島に家を建て暮らしてまいりました。しかし、奥様の病気やご主人様が倒れたことで娘様お二人が心配され、同居の話をしてくれました。その時、ご夫婦の中で、「大切な娘達だからこそ、この娘達の世界や暮らしを大切にしたい。もっと先のいつか面倒を看てもらわないといけない時が来るかもしれない。それまでの間は一人で暮らしていこうと思ったの。」と話されていました。そんな中、近所にもりが開設することを聞き、娘様とも相談し入居の決意をされたそうです。

住み心地や職員の対応について

「本当に素晴らしい！こんなに良い所はない！今が一番幸せだよ！」と話しをして下さる奥様。「病院に行くにも顔なじみのヘルパーさんが付きあつて

くれて、その間お父さんがともに残っていても職員皆さんで気にかけてくれて、食事の誘いもしてくれる。いつも笑顔でとても親切な人ばかり。食事もお本当に美味しくて、三食ともお世話になってるの。食堂に行けば、他の人達とも話ができて楽しい。体操の時間もあつて、家にいるより歩く機会も増えて、良い運動になっています。」

週一回、訪問販売に来て下さっている『ショッピングつむら』も利用されており、「欲しい物を言えば持ってきてくれるし便利よ。」と話されていました。

家族への想い

今回お話を伺っている中で多く聞かれたことがあります。それが娘様達への感謝の想いです。本当に自慢の家族だと、聞いている私も幸せな気持ちになるくらいでした。「娘達は本当に良い娘達。孫も婿さんも本当に良くしてくれる。薬の管理もしてくれて、必要なものはないかと気にかけてくれる。『何も心配しなくて良いよ』といつも言ってくれて感謝してるの。私達は本当に幸せ者です。」

母の遺言

「人を大切にすれば、いつか自分に返ってくる。人に指をさすことは決してしてはいけない。その指の先には相手ではなく自分がいるという事。人に感謝して生きなさい。」最後にこの言葉を胸に一生懸命生きてきたとお話下さいました。



白山勝彦様・和子様 ご夫婦

勝彦様はサービスつき高齢者住宅。奥様はグループホームで生活をされています。今までは離れての生活でしたが、ともに開設されてからは同じ屋根の下で生活されています。

『ともに』での生活を決めたいきっかけや理由

北広島でご夫婦二人生活されていましたが、奥様に認知症状があらわれ、福祉機関を利用されるようになりました。ご主人様も脳梗塞を経験され、車の運転ができなくなり、自炊も大変だったりと、今後の生活について悩んでいたそうです。そんな様子を知った娘様から同居しないかという話があったのですが、娘様の負担や家族でも生活を共にすることで、気を遣いあい遠慮した関係になってしまおうのではないかと考え、違う視点で考えてみようと思ったと正直な気持ちを話して下さいました。そんな中、よく利用するタクシースターの運転手より、『ともに』が開設することの情報を聞いたそうです。その情報の中で、『ともに』にはサービス付き高齢者住宅の他に、グループホームも併設されており、場所は違いますが、同じ建物の中で奥様と繋がっていることができることも決めた大きな理由の一つだったそうです。

住み心地や職員の対応について

この質問をさせて頂いた時の第一声が「素晴らしい！」という言葉でした。「まず、どの職員さんもおすれ違ふ時ですら、しっかりと立ち止まって頭を下げて挨拶をする。これは簡単なようで難しいことだよ。」とありがたい評価を頂きました。また「とにかく皆さん親身な気持ちで接してくれる。今までの人生で色々な人間を見てきたから、その態度に偽りがあるかは見極める事が出来る。この職員さんは本当に親切だ。」と更に嬉しいお話しを頂きました。では住み心地についてはどうでしょうか。自由な生活に加え、誰かがいるという安心感がある。入居されたばかりの五月。深夜に身体の様子に違いを感じ、ナースコールを押すと、すぐに職員が救急車要請。かかりつけの病院に搬送され、検査の結果、脳梗塞の再発だったそうです。早期発見の為に回復できた経験が踏まえ、「ここにいたから回復できた。家だったらなかなか難しい事だったと思うよ。」と話されていました。

そしてもう一つ、前文にもありますが、ご主人様はサービス付き高齢者住宅。奥様はグループホームで生活されています。居住空間は別々ですが、同じ建物の中。逢いたい時に逢える環境が『ともに』にはあります。お一人にとつての口課があり、それは毎日夕食を一緒に召し上がる事です。その際、ご主人様は晩酌もするそうですが、「行くとね、いつも耳が痛くなるような昔の話を妻がするのです。でもそれが良い酒のつまみになってね(笑)。どっしりだと思いま

すか？ 話の内容はともかく、話している妻が生き

生きとしていて、前よりも元気になった様子をみる事が出来るからですよ。」と優しい表情でお話下さいました。ご夫婦にとつて同じ時間や空間を共にできる支援をさせて頂けた事。そのことで、お二人の笑顔を見ることが出来た事を嬉しく感じました。

今後について

インタビューをさせて頂いた数日後に忘年会があることを教えて下さいました。「自分の時間を有意義に使う。これはとても大切な事です。」と教えて頂きました。最後に、奥様との事についてお話し下さいました。「僕は妻とずっと一緒に最期までここで過ごしていけたらと思っています。ここが終の棲家であればと思っているよ。」と語って下さいました。



新人職員のはなし

ハチヤ エミカ
蜂谷 江美佳さん (20)
グループホーム西町にて勤務

お客様と一緒に天気の良い日は散歩をして体を動かしたり、歌を歌って笑顔になったりと、グループホームならではのゆとりのある時間を過ごすことができ、充実感の中働くことが出来ています。お客様から学べる事が日々多くあり、毎日が勉強です。一人ひとりと向き合い、たくさんの表情をみせて頂けることがうれしいです。

センター四恩園

「施設に住んで地域で暮らす」ために

北広島団地地域サポートセンター四恩園 神部 健史

特別養護老人ホームで暮らす人々は、個々それぞれなんらかの理由で施設という場所へ居住地を移した人たちであり、それがどんな理由であれ、ここでの暮らしは、可能な限りそれまでの人間関係や社会関係が継続され、安心、安全が確保されたものでなければならぬものだと思います。それが「自分らしい暮らし」の基礎となるものだと思います。

人は人との間に関係を結ぶことで人間として生きることを感じることができるといえます。

しかし、病気や障がいを抱えて自らその関係を作り、結ぶことが困難になった人たちに関係づくりのための媒介の役割を担うのが「ケアを担う者」であり、同時に「その使命と責任を追う」のだと思います。

人がこの世に生まれ最初に属する集団が家族です。だからこそ家族と離れ施設に住むことになっても家族との関係が大切にされなければなりません。良好な家族関係を基本にして、隣近所、地域へと

人間関係が広がり、生活範囲が拡大していくこととなります。

四恩園にはそれぞれの家族関係が大切にしようとするための家族会があり、さらに地域との関係を大切にしようとするボランティアふくろうや多くの地域の方々とのつながりからたくさんの方々の支援をいただいています。

当法人が掲げる基本理念の一つである「地域の資源の活用とつながり」の具現化は特別なことではなく、お客様、家族、地域の人々から大切にされ、大切にしようという日常のお客様へのケア実践の延長線上にあるといえます。

「施設に住んで地域で暮らす」実践は、これからも施設を利用するお客様や家族、そしてボランティア、さらに「ともに」や「ふれて」を利用する地域の人々に四恩園の実践を理解いただくことで実現されるものです。「どこで、誰と、どのように」最期まで生きる「ケアは多くの人たちとのつながりがあることで可能になるものと思います。」

特養部

出会い・繋がり・共に支え・共に喜びあえる
ご縁に感謝

九月二十日土曜日。一年で一番大きな行事である敬老祝賀会が開催されました。総勢一五〇名ほどの方々が会場に集まり、お客様の健康と長寿をお祝いしました。今年はおお客様の笑顔いっぱいあふれるスライドショーから始まり、特養部、管理課職員で一生懸命作成したステンドグラスを披露しました。『鶴は千年・亀は万年』を表した作品です。その他にもふるさとをイメージした美味しい食事や、住宅支援事業所の職員によるだいこんマンボの余興。また、ピアノとソプラノ歌手の方を招いたの演奏など内容の濃い会となりました。私たちがから日頃の恩返しの意味を込めて☆

(施設サービス課 河村)



今年も大勢の参加者に感謝☆☆☆



今年のテーマは故郷★おいしそう～



鶴は千年！亀は万年！皆様の長寿を願い★



素敵な歌声とピアノ演奏♪心穏やかに～

地域サポート

デイサービス

ビックリ!!ドッキリ!! 敬老祭

今年(2015年)は九月十二日～十三日の二日間、デイサービスの敬老祭を開催致しました。今年の敬老祭は祝賀会をはじめ、カラオケ大会や職員とお客様とのマジックショーなどで盛り上がりました。祝賀会では、喜寿・米寿・白寿・百寿のお客様のお祝いをさせて頂きました。一人一人のプロフィールを作成し、その中に座右の銘として「〇〇歳まで生きる!」や「動けるうち動く、頭を動かす、やり通す!」などそれぞれ個性あふれる言葉がありました。

カラオケ大会では、いつもカラオケに参加して頂いているお客様が日頃の練習成果を発表するステージとなり、ステージ横で「あー、緊張するー」「大丈夫かな」とドキドキしながら自分の順番を待っていました。いざ、出陣! ステージ上で一人一人の十八番を歌い切り、最後は笑顔でステージを後にされてカラオケ大会は幕を降ろしました。



ジャン、わかるかな、はい、あなた



イセエビ あーん



俺の18番!!



これぞ、満面の笑み



メンスの集合写真

マジックショーでは職員とお客様がマジシャンの衣装に身をまとい、見ているお客様を驚かせて、笑顔を引き出しワクワクドキドキのショーをくりひろげていました。

今年(2015年)は、お客様と職員とで一緒に敬老会を盛り上げていけるようなプログラムを考え、和気あいあいとした雰囲気での会を開催できたように感じられました。これからも、私ども四恩園職員一同、皆様のご健康を心より願っております。

(デイサービスセンター 岡崎哲也)

ふれて

市民スタッフのマンパワーが地域をつくる

十二月で四年を迎えた「北広島団地地域交流ホームふれて」。十名でスタートしたふれて市民スタッフの会も、現在五十三名になり活動が盛り上がりつつあります。

ふれて市民スタッフの方々は「自分たちが住む北広島を楽しく盛り上げたい。」「この町に住んで良かったと思える、安心できる地域をつくりたい。」とボランティアで活動しています。この情熱と人への優しさが、お互いを支え合える地域をつくっていくと思えます。そして、この活動が少しずつ地域に広がっていくといいですね。

(向山)



イベントそばの日



スタッフミーティング



喫茶試食会



絵本の読み聞かせ



花壇整備

かたる

「来年ももっと来たい!」 外出行事が終了しました

デイホームかたるでは四種類の中から好きなものを二種類まで選んでいただく形での外出行事を実施しています。今年度は、①いちご狩り②買い物ツアー③長沼アイスの家と野菜直売所ツアー④昼食バイキングツアーの四つを企画し、無事に終了しました。いちご狩りでは地域の方と一緒に楽しく食べ、バイキングツアーでは、自分で焼いたお肉や魚などをお腹いっぱい食べてきました。来年もまた行きたい、いや、食べたいですね。

(玉邑)



あいすの家でハイ、ポーズ



これもおいしいかな?



買い物後のひと休み



デザートも食べ放題!



さとみ
地域との繋がり
カフェオープン

「デイホームさとみオープンカフェ」

事業計画では夏祭りをさとみで行う。と、ありましたが、職員の話合いで「オープンカフェで地域の方と楽しく過ごす」ということに視点を変更してみました。夏と秋に開催し、初回は参加者が十五名程で気落ちしました。二回目は三十名を超える町内の方が集まって予想外の盛況でした。ご近所の方から「出来ることなら近所で介護のお話ができると気軽に足を運べるのにね」といいお話しが聞けたり、職員が地域の方々と交流できたりと、さとみの通所介護事業以外の活用が見えた行事でした。夏祭りも考えましたが、「カフェスタイル」で行ったこと

により年間を通し継続できる事業と考えられます。これから町内の皆様に支えながらデイホームさとみを盛り上げていきたい。
（デイホームさとみ 及川）

北広島市みなみ高齢者
支援センターからの
お知らせ

皆様こんにちは！ 北広島市みなみ高齢者支援センターは、北広島団地地区にお住いの六十五歳以上の方の介護や生活に関する総合相談窓口です。職員は、これまで担当させて頂いておりました看護師の「池田」と介護支援専門員の「田中」他、四月より、主任ケアマネジャーに「林」、社会福祉士に「毛利」、「遠藤」が仲間入りし、五名で地域の皆様のお役に立てる様、努めているところです。事務所は地域交流ホーム「ふれて」内にありますので、お気軽にご相談下さい。

（みなみ高齢者支援センター 林・遠藤）



主任介護支援専門員
林 晃市
(はやし こういち)



社会福祉士
遠藤 可奈美
(えんどう かなみ)



社会福祉士
毛利 秀景
(もうり ひでかげ)



看護師
池田 千佳
(いけだ ちか)



介護支援専門員
田中 祐子
(たなか ゆうこ)

職員募集

住み慣れた大好きな北広島で気心の知れた仲間と楽しく、安心して、いつまでも暮らしていきたい。そんな地域の方々の想いを応援したい方を募集します！人の役に立ち、人に喜ばれる仕事を一緒にしませんか。

〈介護職員募集〉

- ① 経験不問。介護資格を持たない方も大歓迎！
※介護経験のない方、介護資格を持たない方、ブランクのある方でも安心して働くことが出来るよう応援いたします。
- ② 研修制度が充実しているので安心！
- ③ 働きながらの資格取得を応援します！

募集に関する問い合わせ TEL 011-373-6655

《各事業所の問い合わせ》

四恩園	〒061-1153 北広島市富ヶ岡509-31 TEL 011 (373) 6655 FAX 011 (373) 6611
デイホームさとみ	〒061-1147 北広島市里見町6丁目5-1 TEL 011 (372) 6363 FAX 011 (372) 6363
地域交流ホームふれて・デイホームかたる	〒061-1144 北広島市白樺町1丁目8-2 TEL 011 (372) 0100 FAX 011 (372) 0011
北広島団地地域サポートセンターともに	〒061-1137 北海道北広島市緑陽町1丁目2 TEL 011 (373) 7007 FAX 011 (373) 7227